

○渡邊 英城・大西 健二

(大分農林水産研花き)

【目的】

トルコギキョウの定植時の苗齢が、切り花品質に及ぼす影響について検討する。

【材料および方法】

試験は早生八重品種「キングオブスノー」を用いガラス温室内で管理した。試験区の定植時苗齢は第1表のとおりとした。播種用土は「ガッチリくん(花用)」を用い、288穴セルトレイで育苗した。このうち試験区4(1.0対葉)は、植え付け時の根鉢の崩壊防止のため、用土に溶解した寒天を加えた。種子は吸水後、冷蔵処理(10℃暗黒、5週間)し、70%遮光下で催芽・育苗した。定植は2005年11月18日に、株間×条間10cmの4条植え(6マスネット中央2条無定植)で行った。施肥はN, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, K<sub>2</sub>Oを各1.5kg/aを基肥とし、追肥として0.5kg/aを5回に分施した。温室は冬期最低夜温を18℃で管理し、早朝電照(16時間日長)を行った。

第1表 試験区の構成

試験区	定植時苗齢	播種日
1	本葉4.0対(抽だい苗)	8/5
2	本葉3.0対(抽だい直前苗)	8/15
3	本葉2.0対(慣行)	8/25
4	本葉1.0対	9/15

【結果および考察】

平均採花日は4.0対葉区が最も早く4月8日に、続いて3.0対葉区がその6日後、2.0対葉区がその14日後、最も遅い1.0対葉は40日後となった。切花長、切花重の数値は平均採花日が遅いほど大きくなり、品質が優れた。節数は2.0, 3.0, 4.0対葉は9節弱で大きな差はなかったが、1.0対葉は10.4節と大きかった。着花分枝数、開花数、有効花蕾数は、苗齢が若いほど数値が

大きく、最も平均採花日が早い4.0対葉は数値が小さく品質が劣った(第2表)。

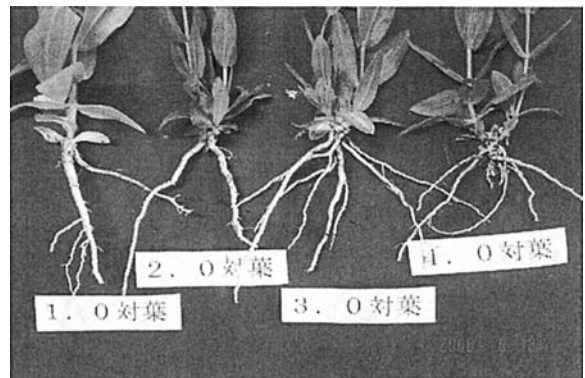
切り花の調査終了後、切り下株を掘り上げて根部の状況を調査したが、1.0対葉区は直根に近い形で根が発達し、地中の浅い場所には二次根、三次根の発生は少なかった。2.0対葉区は地際で2~3本に根部が分かれ、そのまま地中へ伸長し、3.0対葉区は地中の浅い場所で二次根、三次根が多く発達していた。また、4.0対葉区はセルトレイの形で根が巻いたままの形態から二次根、三次根の伸長が観察された(第1図)。

以上の結果から、1.0~4.0対葉の苗齢では、高苗齢ほど採花が早くなるものの品質は低下し、逆に若苗齢ほど切り花品質が優れることが明らかになった。しかし、現場から要望の強い穴数の多いセルトレイ(406穴)を用いて4.0対葉まで仕立てることが難しいこと、1.0対葉苗の場合は定植作業をスムーズに行うため培土を寒天で固化する等、新たな行程が必要となり、今後の課題も残った。

第2表 苗齢の違いと切り花品質

試験区	平均採花日 (月/日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	節数 (節)	着花分枝数 (本)	開花数 (輪)	有効花蕾数 (個)
1	4/8	64.1	50.6	8.7	2.0	3.0	3.1
2	4/14	70.2	59.7	8.6	2.1	3.3	3.5
3	4/22	72.2	70.6	8.9	2.7	3.7	4.0
4	5/18	76.7	79.3	10.4	3.3	4.0	4.8

注1) 節数・着花分枝数は、第1花以下の数値を表す



第1図 苗齢と根部の状態